

## スポーツウエルネス学位プログラム

<http://www.shp.taiiku.otsuka.tsukuba.ac.jp/>

### 特色

本学位プログラムは、社会人を対象としてスポーツウエルネス領域に係る国内外の重要課題解決のために、博士レベルの高度な専門知識を保有した上で、イノベーションが必要な難度の高い課題解決を推進できるマネジメント能力を併せ持つ高度専門職業人を養成することを目的としています。

近年、スポーツウエルネス領域で国際的な活躍をする人々が注目される一方で、多くの課題も見受けられます。例えば、日本の地域あるいは企業等でさまざまな関連施策が成果につながらない要因の一つは、このようなスポーツウエルネス領域におけるより高度な専門性とマネジメント能力を併せ持つ人材が不足していることにあると考えられます。

そこで、本学位プログラムは、日本と世界の未来のために、スポーツウエルネス領域に必要な人材、すなわち、スポーツウエルネスにかかわる諸課題を包括的、組織的に解決する課題解決力およびマネジメント能力を修得した高度専門職業人を育成するという使命を担うために新たに平成28年4月に設立されました。

本学位プログラムを修了し、力をつけた人材が国内外の産学官のさまざまな責任ある立場でリーダーシップを発揮し、周りの高度専門職業人と連携し、イノベーションを起こしていくことが期待されます。

### 教育方法

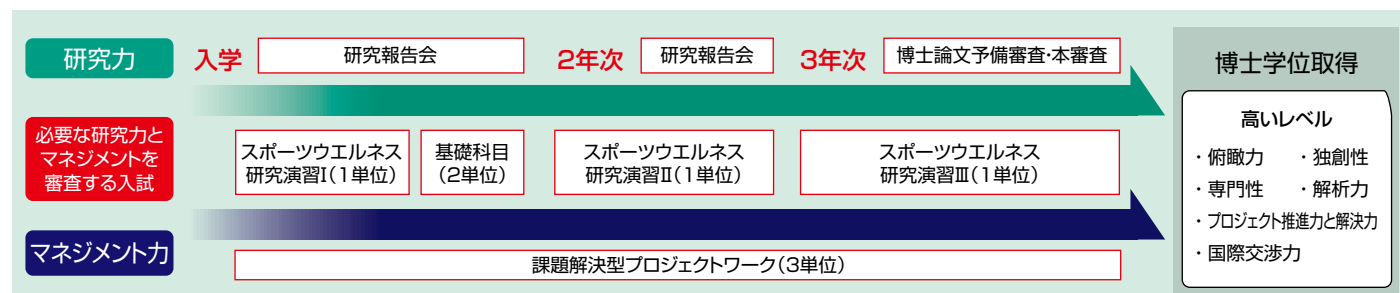
(1) 課程を通して修得すべき知識・能力

高度な研究力とマネジメント力を併せ持った高度専門職業人の育成のために、基礎科目、演習のほか、課題解決型プロジェクトワークを導入し、プロジェクト推進力と解決力を養います。

(2) 指導体制

1人の学生に対して3名のアドバイザーグループを設置し、複数指導体制を整えます。

### <コースワーク>



(3) 学位授与のプロセス

各学年で定期的に行われる研究報告会にて、次の段階に進めるか否かの合否判定を行います。この合否には、単位の取得、学会発表や研究誌投稿などの達成すべき課題も含まれます。これにより、学位授与までのプロセスを明確化にすることで、段階的な研究指導を実現します。

(4) 学位授与の方針

筑波大学大学院学則に規定された、博士課程の修了に必要な要件を満たした上で、スポーツウエルネス領域において、以下に示す能力を有することが最終試験によって認定された者に学位(博士(スポーツウエルネス学))を授与します。

- ① 高度な課題解決力の向上を支える研究力とマネジメント力
- ② 俯瞰的な視野と柔軟な思考力
- ③ 様々な領域の人材とチームを組んで課題を解決する能力
- ④ 最先端の研究技法を駆使して、グローバルなレベルで問題解決できる能力

### <応募状況>

平成29年度			
定員	志願者数	合格者数	入学者数
若干名	7	3	3
平成30年度			
定員	志願者数	合格者数	入学者数
若干名	7	3	3
平成31年度			
定員	志願者数	合格者数	入学者数
若干名	3	1	1

### <修了状況>

博士(スポーツウエルネス学)

平成30年度
2

人間総合科学研究科  
(3年制博士課程)

スポーツウエルネス学位プログラム

教育課程シラバスは

(URL: <https://kdb.tsukuba.ac.jp/>)

または、専攻ホームページ

(URL: <http://www.shp.taiiku.otsuka.tsukuba.ac.jp/>) から

ダウンロードできます。

## 2019年度学年暦カレンダー【東京地区】

大学院関係:東京キャンパス

春 学 期								秋 学 期							
曜日	日	月	火	水	木	金	土	曜日	日	月	火	水	木	金	土
4月		1	2	3	4	5	6	10月			1	2	3	4	5
	7	8	9	10	11	12	13		6	7	8	9	10	11	12
	14	15	16	17	18	19	20		13	14	15	16	17	18	19
	21	22	23	24	25	26	27		20	21	22	23	24	25	26
	28	29	30						27	28	29	30	31		
5月				1	2	3	4	11月						1	2
	5	6	7	8	9	10	11		3	4	5	6	7	8	9
	12	13	14	15	16	17	18		10	11	12	13	14	15	16
	19	20	21	22	23	24	25		17	18	19	20	21	22	23
	26	27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30
6月							1	12月	1	2	3	4	5	6	7
	2	3	4	5	6	7	8		8	9	10	11	12	13	14
	9	10	11	12	13	14	15		15	16	17	18	19	20	21
	16	17	18	19	20	21	22		22	23	24	25	26	27	28
	23	24	25	26	27	28	29		29	30	31				
7月		1	2	3	4	5	6	1月				1	2	3	4
	7	8	9	10	11	12	13		5	6	7	8	9	10	11
	14	15	16	17	18	19	20		12	13	14	15	16	17	18
	21	22	23	24	25	26	27		19	20	21	22	23	24	25
	28	29	30	31					26	27	28	29	30	31	
8月					1	2	3	2月							1
	4	5	6	7	8	9	10		2	3	4	5	6	7	8
	11	12	13	14	15	16	17		9	10	11	12	13	14	15
	18	19	20	21	22	23	24		16	17	18	19	20	21	22
	25	26	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28	29
9月	1	2	3	4	5	6	7	3月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14		8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21		15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28		22	23	24	25	26	27	28
	29	30							29	30	31				
授業 日数			⑮	⑮	⑮	⑮	⑮	授業 日数			⑮	⑮	⑮	⑮	⑮

(注)

1. 太字は、国民の祝日に関する法律による休日(振替え休日含む)を示す。  
(ただし、天皇誕生日及びその翌日の振替休日、春分の日は予定である)
2. 期末試験日は  で示し、試験予備日を  で示す。
3. 休業日は  で示す。

4. 入学式・新入生オリエンテーション・学位記授与式は  で示す。
  5. 11月9日(土)は入学試験関係で全日臨時休業とする予定。
- ※ 各学期は、A,B,Cの3つのモジュールに分かれます。

Aモジュール  
 Bモジュール  
 Cモジュール

## 人間総合科学研究科スポーツウエルネス学位プログラム

## 基礎専門科目必修(スポーツウエルネス学位プログラム)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
02JL001	課題解決型データ分析論特講1	1	1.0	1	春BC	集中	5F558講義室	岡田 幸彦	社会科学のデータ分析手法や研究デザインを学ぶ。特に、受講生の研究課題、問題意識、保有データに対して適切な分析手法について、深い理解を得られるように、対話形式で授業を進める。社会科学の実証分析手法は多様である。これらを適切に使いこなせるように、授業では典型的な実証研究論文を取り上げる予定である。	受講はスポーツウエルネス学位プログラムの学生に限る 6/29, 7/13
02JL002	課題解決型データ分析論特講2	1	1.0	1	秋AB	集中	5F558講義室	岡田 幸彦	世の中には、多様な社会データが存在している。これからの時代に利用可能な各種データに対する最先端の解析技術・方法論を事例紹介するとともに、それらのスポーツウエルネス領域への応用可能性を議論する。なお、授業では、筑波大学サービス工学ビッグデータCoEの成果を取り上げることを中心に進める予定である。	受講はスポーツウエルネス学位プログラムの学生に限る 10/26, 11/9 (11/9:555ゼミ室)

## 専門科目必修(スポーツウエルネス学位プログラム)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
02JL101	スポーツウエルネス研究演習I	2	1.0	1	通年	随時		尾縣 貢 菊 幸一 久野 譜也 水上 勝義 山口 香 柴田 愛 高橋 義雄	スポーツウエルネス領域に関する研究及び課題解決型プロジェクトワークについて指導教員を中核としてメンタ教員を含めての指導のもとに研究計画を立案し、研究テーマの設定を行う。中間報告会Iに終日参加すること、および、研究テーマおよび研究計画を発表する。	受講はスポーツウエルネス学位プログラムの学生に限る
02JL102	スポーツウエルネス研究演習II	2	1.0	2	通年	随時		尾縣 貢 菊 幸一 久野 譜也 水上 勝義 山口 香 柴田 愛 高橋 義雄	スポーツウエルネス領域に関する研究に、設定した各自の研究テーマに基づき、担当教員の指導のもとに、研究を実施し、資料・データの解析、プレゼンテーションの方法等について学ぶ。中間報告会IIに終日参加すること、および、研究進捗状況や構想、データ収集および分析状況について発表する。研究演習IIまたはIIIで国際学会での発表を1回以上行う。(海外での調査研究に代えることができる)。	受講はスポーツウエルネス学位プログラムの学生に限る
02JL103	スポーツウエルネス研究演習III	2	1.0	3	通年	随時		尾縣 貢 菊 幸一 久野 譜也 水上 勝義 山口 香 柴田 愛 高橋 義雄	スポーツウエルネス領域に関する研究に、設定した各自の研究テーマに基づき、担当教員の指導のもとに、研究成果をまとめる。研究演習IIIまたはIIIで国際学会での発表を1回以上行う。(海外での調査研究に代えることができる)	受講はスポーツウエルネス学位プログラムの学生に限る
02JL104	課題解決型プロジェクトワーク	7	3.0	1・2	通年	随時		尾縣 貢 菊 幸一 久野 譜也 水上 勝義 山口 香 柴田 愛 高橋 義雄	スポーツウエルネス領域で学んだ知識や能力を実務に生かすための経験やトレーニングを行う。具体的には、スポーツウエルネス領域に関わる官庁、地方自治体、NPO、民間等の機関などの実際の受け入れ現場において、課題設定を行い、その解決のためのプロジェクトを実施する。この授業では、事前計画(実習テーマ設定、計画書の作成、発表)、フィールドワーク、事後報告(フィールドワーク報告書の作成、発表)の3段階で実施する。	受講はスポーツウエルネス学位プログラムの学生に限る 平成28年度入学者用
02JL105	課題解決型プロジェクトワークI	7	1.0	1	通年	随時		尾縣 貢 菊 幸一 久野 譜也 水上 勝義 山口 香 柴田 愛 高橋 義雄 足立 和隆	スポーツウエルネス領域で学んだ知識や能力を実務に生かすための経験やトレーニングを行う。具体的には、スポーツウエルネス領域に関わる官庁、地方自治体、NPO、民間等の機関などの実際の受け入れ現場において、課題設定を行い、その解決のためのプロジェクトを実施する。この授業では、事前計画(実習テーマ設定、計画書の作成、計画発表)を行う。	受講はスポーツウエルネス学位プログラムの学生に限る 平成29年度以降入学者用
02JL106	課題解決型プロジェクトワーク II	7	2.0	2・3	通年	随時		尾縣 貢 菊 幸一 久野 譜也 水上 勝義 山口 香 柴田 愛 高橋 義雄 足立 和隆	スポーツウエルネス領域で学んだ知識や能力を実務に生かすための経験やトレーニングを行う。具体的には、スポーツウエルネス領域に関わる官庁、地方自治体、NPO、民間等の機関などの実際の受け入れ現場において、課題設定を行い、その解決のためのプロジェクトを実施する。この授業では、フィールドワーク、事後報告(フィールドワーク報告書の作成、発表)を行う。事後報告では、フィールドワーク実施内容、実施中に生じた問題点などに対する解決策を提示、新たな問題提起、大学院で学習した理論・議論の再構築等に関する考察及び発表を行う。	受講はスポーツウエルネス学位プログラムの学生に限る 平成29年度以降入学者用

履修方法・修了要件（平成31年度入学者用）

スポーツウエルネス学位プログラム

【履修方法・修了要件】

科目区分	条件又は科目名等	修得単位数
専門基礎科目 (必修)	課題解決型データ分析論特講1 課題解決型データ分析論特講2	2
専門科目 (必修)	スポーツウエルネス研究演習Ⅰ スポーツウエルネス研究演習Ⅱ スポーツウエルネス研究演習Ⅲ	3
	課題解決型プロジェクトワークⅠ 課題解決型プロジェクトワークⅡ	3
修了単位数		8
<p>修了要件は、原則として、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○指定された必修科目の8単位以上の取得(専門基礎科目2単位、専門科目6単位)</li> <li>○博士論文の審査及び最終試験に合格すること</li> </ul> <p>本学位プログラムに3年以上在学し、上記の修了要件を全て満たした者には、「博士(スポーツウエルネス学)」の学位が授与される。</p>		

## 履修方法（平成31年度入学者用）

1. 修了に必要な単位は、以下のとおりである。

(1) 専門基礎科目（必修）

- ・ 課題解決型データ分析論特講 1
  - ・ 課題解決型データ分析論特講 2
- 以上 2 科目（2 単位）

(2) 専門科目（必修）

- ・ スポーツウエルネス研究演習 I
  - ・ スポーツウエルネス研究演習 II
  - ・ スポーツウエルネス研究演習 III
  - ・ 課題解決型プロジェクトワーク I
  - ・ 課題解決型プロジェクトワーク II
- 以上 5 科目（6 単位）

2. 修了要件は、原則として、

- ・ 指定された必修科目の 8 単位以上の取得
  - ・ 博士論文の審査及び最終試験に合格すること
- ※研究論文誌で筆頭論文 1 編以上を持つことが望ましい

本学位プログラムに 3 年以上在学し、上記の修了要件を全て満たした者には、「博士（スポーツウエルネス学）」の学位が授与される。

履修方法・修了要件（平成29・30年度入学者用）

人間総合科学研究科 スポーツウエルネス学位プログラム

【履修方法・修了要件】

科目区分	条件又は科目名等	修得単位数
専門基礎科目 (必修)	課題解決型データ分析論特講1 課題解決型データ分析論特講2	2
専門科目 (必修)	スポーツウエルネス研究演習Ⅰ スポーツウエルネス研究演習Ⅱ スポーツウエルネス研究演習Ⅲ	3
	課題解決型プロジェクトワークⅠ 課題解決型プロジェクトワークⅡ	3
修了単位数		8
<p>修了要件は、原則として、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○指定された必修科目の8単位以上の取得(専門基礎科目2単位、専門科目6単位)</li> <li>○国際学会口頭発表2回以上(海外が望ましい)、海外調査等に代えることも可能</li> <li>○課題解決型プロジェクトワーク報告書の合格</li> <li>○博士論文の合格             <ul style="list-style-type: none"> <li>※研究論文誌で筆頭論文1編以上を持つことが望ましい</li> </ul> </li> </ul> <p>本学位プログラムに3年以上在学し、上記の修了要件を全て満たした者には、「博士(スポーツウエルネス学)」の学位が授与される。</p>		

## 履修方法（平成29・30年度入学者用）

1. 修了に必要な単位は、以下のとおりである。

(1) 専門基礎科目（必修）

- ・ 課題解決型データ分析論特講 1
- ・ 課題解決型データ分析論特講 2      以上 2 科目（2 単位）

(2) 専門科目（必修）

- ・ スポーツウエルネス研究演習 I
- ・ スポーツウエルネス研究演習 II
- ・ スポーツウエルネス研究演習 III
- ・ 課題解決型プロジェクトワーク I
- ・ 課題解決型プロジェクトワーク II      以上 5 科目（6 単位）

2. 修了要件は、原則として、

- ・ 指定された必修科目の 8 単位以上の取得
- ・ 博士論文の合格  
※研究論文誌で筆頭論文 1 編以上を持つことが望ましい
- ・ 国際学会発表 2 回以上（海外が望ましい）、海外調査等に代えることも可能
- ・ 達成度評価：研究報告会 I（1 年次）の出席・発表
- ・ 達成度評価：研究報告会 II（2 年次）の出席・発表
- ・ 課題解決型プロジェクトワーク報告会の出席・発表及び報告書の合格

本学位プログラムに 3 年以上在学し、上記の修了要件を全て満たした者には、「博士（スポーツウエルネス学）」の学位が授与される。



履修方法・修了要件（平成28年度入学者用）

人間総合科学研究科 スポーツウエルネス学位プログラム

【履修方法・修了要件】

科目区分	条件又は科目名等	修得単位数
専門基礎科目 (必修)	課題解決型データ分析論特講1 課題解決型データ分析論特講2	2
専門科目 (必修)	スポーツウエルネス研究演習Ⅰ スポーツウエルネス研究演習Ⅱ スポーツウエルネス研究演習Ⅲ	3
	課題解決型プロジェクトワーク	3
修了単位数		8
<p>修了要件は、原則として、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○指定された必修科目の8単位以上の取得(専門基礎科目2単位、専門科目6単位)</li> <li>○国際学会口頭発表2回以上(海外が望ましい)、海外調査等に代えることも可能</li> <li>○課題解決型プロジェクトワーク報告書の合格</li> <li>○博士論文の合格             <ul style="list-style-type: none"> <li>※研究論文誌で筆頭論文1編以上を持つことが望ましい</li> </ul> </li> </ul> <p>本学位プログラムに3年以上在学し、上記の修了要件を全て満たした者には、「博士(スポーツウエルネス学)」の学位が授与される。</p>		

## 履修方法（平成28年度入学者用）

1. 修了に必要な単位は、以下のとおりである。

(1) 専門基礎科目（必修）

- ・ 課題解決型データ分析論特講 1
  - ・ 課題解決型データ分析論特講 2
- 以上 2 科目（2 単位）

(2) 専門科目（必修）

- ・ スポーツウエルネス研究演習 I
  - ・ スポーツウエルネス研究演習 II
  - ・ スポーツウエルネス研究演習 III
  - ・ 課題解決型プロジェクトワーク
- 以上 4 科目（6 単位）

2. 修了要件は、原則として、

- ・ 指定された必修科目の 8 単位以上の取得
- ・ 博士論文の合格
  - ※研究論文誌で筆頭論文 1 編以上を持つことが望ましい
- ・ 国際学会発表 2 回以上（海外が望ましい）、海外調査等に代えることも可能
- ・ 達成度評価：研究報告会 I（1 年次）の出席・発表
- ・ 達成度評価：研究報告会 II（2 年次）の出席・発表
- ・ 課題解決型プロジェクトワーク報告会の出席・発表及び報告書の合格

本学位プログラムに 3 年以上在学し、上記の修了要件を全て満たした者には、「博士（スポーツウエルネス学）」の学位が授与される。